

光と海

菅かおる

KAN Kaoru solo exhibition
“LIGHT AND SEA”

二〇一九年

一〇月十一日[金]～二七日[日] 午前十一時～午後七時
[金]・[土]のみ午後二〇時まで開廊 一[月]休廊

「関連イベント」

*「蠟燭の光による特別鑑賞」

「金」・「土」の午後八時～午後二〇時

会期中、毎週金曜・土曜のみの特別展示として、蠟燭の光による作品鑑賞をご体験いただけます。光によって異なる様相を見せる菅かおるの作品や日本画の魅力をお楽しみください。(無料・予約不要)

*「トークイベント」

一〇月二〇日[日] 午後五時～午後六時半

菅かおる(展示作家)・はがみちこ(本展企画者)・佐々木暁一(長性院副住職)によるトークイベント。長性院での展示の様子をはじめ、作品や空間・時間、「光」にまつわるそれぞれの話を伺います。(無料・予約不要)

「企画」はがみちこ

「主催」うみをめぐる会

「共催」真宗佛光寺派長性院 Gallery PARC

「協力」一般社団法人HAPS 有限会社 中村ローソク、京都芸術センター、真宗佛光寺派 本山佛光寺、株式会社和える

STUDIO 森森、小島商店、株式会社花幾商店、川田知志、少徳信、田中和人、野村由未来、守屋友樹

「助成」京都市文化力チャレンジ補助事業

菅かおる(かん・かおる)／1976年(大分生まれ)は、「水」をおもなモチーフに、伝統的な日本画の画材や技法を用いて「水に見る景色」を描き出します。その作品は日本画の写生に基づく精密な描画によるものだけでなく、自らの興味や好奇心を出発点とする絵画的な探求が重なられた独自の世界として現れています。

私たちが水面を覗くとき、そこに見えるものは光の届かない水底・水・水面・空・空気・光など、様々な要素であると言えます。これらはいわゆるレイヤーといった概念で前後の関係に整理・整合されるものではなく、ひとつの塊(空間)としてすべてが目の前に在り、私たちの眼差しの焦点や動き、光のうつろいによって「見える・見えない」の狭間を揺らぎます。これらを「水に見る景色」として、そこに在る空間・事象を描こうとする菅にとって、周囲の光や鑑賞者の動きに呼応して絵が浮かび、沈む日本画材の特性は、まさにこの感覚を再現するにあたり最適なものであったといえます。

菅は偶然性を借りて画面に様々な色面を生じさせ、そこに見出した平面性・空間性を手がかりに線を描きます。この線はいわゆる物の輪郭を描画するためのものではなく、伸びやかな運動の軌跡や光跡、あるいは幾何学形態そのものとして描かれ、背景の茫漠とした色面と関係することで、そこに透明度や奥行きといった空間性を出現させています。また、日本画材によるその線や面は、照射される光の色や角度、うつろいによってさらに変化し、画面内の関係性をも折々に変化させます。

古来より日本画は、刻々と変化する自然光や蠟燭の炎などの光源・光量のもとで鑑賞されることを前提として、その画材や技術を深化させてきました。顔料や箔などの日本画材は、照射される光源・光量に呼応して発色や存在を変化させるもので、描き手はその変化を前提として目と想像を用いて絵を描くともいえます。菅もこれに倣い、かつて蠟燭の灯のみで作品を鑑賞する機会などに取り組んできましたが、本展ではその探求をさらに進化させ、様々な光・空間に作品を展開することで、絵に内在する多様な魅力を発見する機会として取り組みます。

真宗佛光寺派長性院とギャラリー・バルクを会場に、2期による構成となる本展「光と海」は、宗教空間とギャラリーという属性の異なる空間に対して作品がどのように作用し、空間は作品鑑賞にどのように作用するのかを考察するものです。またギャラリー・バルクでは通常の美術照明に加え、自然光や蠟燭などの光源を用いることで、作品と光の関係性についても考察を深めます。

ひそかにおもんみれば

難思の弘誓は難度海を度する大船

無碍の光明は無明の闇を破する慧日なり

—親鸞「顕浄土真実教行証文類序」

「光」と「海」は、浄土真宗の宗祖・親鸞にとつて、ことさらに特別な意味を持ちます。遮られることのない不思議な光は、一切の生き物をあまねく救う阿弥陀如来の願力の象徴です。「南無阿弥陀仏」は「南無不可思議光如来」であり「帰命尽十方無碍光如来」であり、あたかも光に向けられた信仰かのようなです。流罪を経験した親鸞の海はさらに重層的な「難度海(渡り難い海)」「群生海」「本願海」「大宝海」無数に群がり生きるこちらの世界と、救いの法の満ちるあちらの世界を同じ相に置くものが、海だといえるでしょう。

本展は、寺院という宗教空間とギャラリーという中立空間を会場に、菅かおるの二つの個展をおこなうものです。日本画の技法を用いる菅は、古来からの絵画の受容に倣って蠟燭の灯りで展示をおこなうなど、これまでも、絵画と光の関係に注意を払って実験を続けてきました。特に、光の状況により大きく表情を変ええる金箔の扱いに意識を向けています。絵画や飾り、光の効果などで空間を異質化し、意味性を付与する効果を仏教では「莊嚴」と呼びますが、菅の参照するような伝統的鑑賞における絵画は、空間作用の機能をともなうものでした。

信は莊嚴なり。「光と「海」をモチーフとして、試みに、絵画を莊嚴のための「装置」としてみます。同じ絵を、別様の空間で、別様の光源で展示するとき、どのような作用が働くでしょうか。揺らぐ炎の光、移ろう太陽の光。水面や深海を描く水の画家とともに、絵画を「作品」として照らし出す展示用照明から解放します。

本展企画：はがみちこ(アート・メディアーター)

菅 かおる

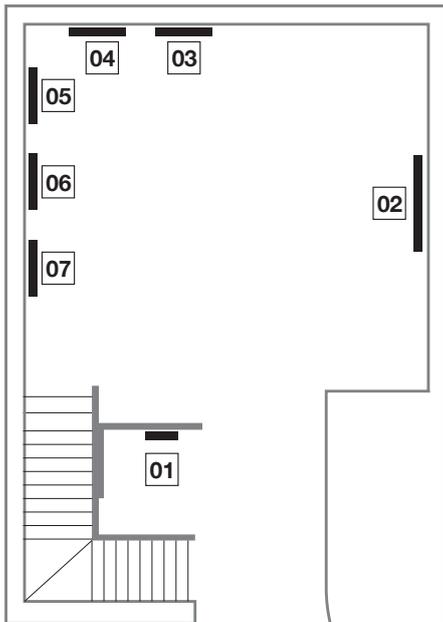
KAN Kaoru

大分県生まれ。現在、京都と福岡を拠点に制作活動中。2000年京都造形芸術大学美術科日本画コース卒業。千住博に師事。

主な受賞に2012年康耀堂美術館賞、2015年琳派400年記念新鋭選抜展優秀賞受賞等。主な個展に、2010年「水中トリップ 蝋燭の灯でみる水の絵」(Gallery Antenna・京都)、2014年「アクロス・ザ・ユニバース」(Gallery PARC・京都)、2015年「secret place」(新生堂・東京)、2018年「環の中の永遠」(Gallery Seek・東京)等。主なグループ展参加に、2011年「グループホライズン」(高島屋)、2012年「アブストラと12人の芸術家」(大同倉庫・京都)等。

WORKS

2F



01 《AQUA (stars)》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
530×530mm
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

02 《夜の海》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
970×1880mm
sea at night
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

03 《水景色 V》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・銀箔
910×910mm
water view V
mineral pigments and silver leaf on Japanese paper

04 《水景色 IV》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・銀箔
910×910mm
water view IV
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

05 《水景色 III》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・銀箔
910×910mm
water view III
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

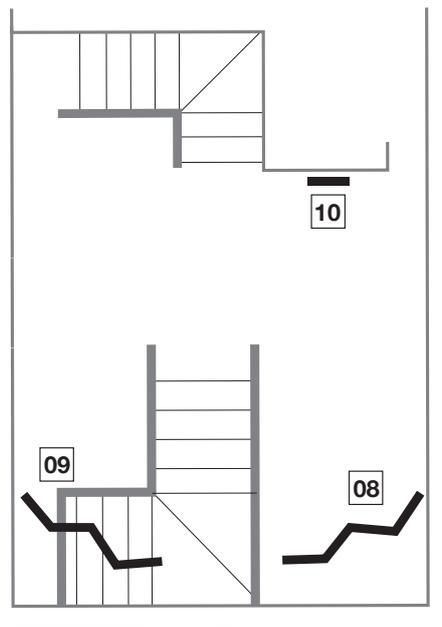
06 《水景色 II》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・銀箔
910×1167mm
water view II
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

07 《水景色 I》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・銀箔
910×910mm
water view I
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

3F



08 《Light and Sea #2》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
1060×1970mm
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

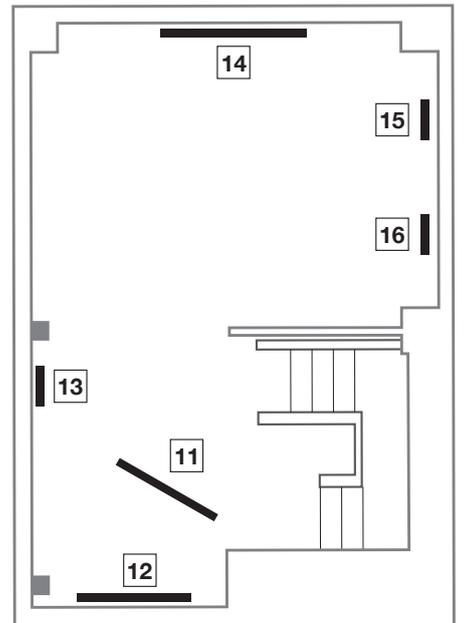
09 《Light and Sea #3》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
1060×1970mm
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

10 《AQUA (shell and stars)》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
333×333mm
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

4F



11 《Light and Sea #1》

2019
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
1060×1970mm
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

12 《AQUA》

2016
雲肌麻紙に岩絵の具・銀箔・金箔
1167×1167mm
mineral pigments and gold leaf and silver leaf on Japanese paper

13 《Origin (二つの螺旋と二重のジグザグ線)》

2018
雲肌麻紙に岩絵の具・金箔
410×318mm
Origin (Two spirals and double zigzag lines)
mineral pigments and gold leaf on Japanese paper

14 《AQUA (deep silver)》

2016
雲肌麻紙に岩絵の具・黒箔
1455×1455mm
mineral pigments and silver leaf on Japanese paper

15 《Origin (ふたつの光線と貝の出現)》

2018
雲肌麻紙に岩絵の具・金泥
410×318mm
Origin (two rays of light and emerging shellfish)
mineral pigments and gold on Japanese paper

16 《Origin (古代の記憶)》

2018
雲肌麻紙に岩絵の具・金泥
410×318mm
mineral pigments and gold on Japanese paper